

第1回宇宙開発利用体制検討ワーキンググループ議事要旨

- ◎ 日 時：平成20年10月28日（火）15：55～17：55
- ◎ 場 所：中央合同庁舎第4号館1202会議室
- ◎ 出席構成員：（敬称略、50音順）
田中明彦（主査）、青木節子、佐藤勝彦、田中俊二、中須賀真一、椋田哲史

◎ 議事概要：

1. 開会

2. 宇宙開発利用体制検討ワーキンググループの運営について

資料2について事務局より説明が行われ、原案のとおり本ワーキンググループを運営することが決定された。また、田中主査より中須賀構成員が主査代理に指名された。

3. 今後の進め方について

資料3-1について事務局より説明が行われ、議論の結果、原案のとおり了解された。ただし、資料3-1において具体的に記載された範囲のみを議論するのではなく、幅広く議論していくという方針が確認された。その他の議論の概要は、以下のとおり。

- 従来の独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の研究開発は、技術の有効性を実証する段階までを行うものであったが、今後は、ビジネスとしての有効性を実証可能な段階まで実施すべきではないかとの産業界からの要望も踏まえ、検討を行うことが必要である。

- 研究開発政策やJAXA等に関する検討範囲に、宇宙開発委員会も含まれることが確認された。

また、資料3-2について事務局より説明が行われ、原案のとおり了解された。

4. 我が国の宇宙開発利用体制について

資料4について事務局より説明が行われた。

5. 諸外国の宇宙開発利用体制について

資料5について事務局より説明が行われ、議事4と併せて議論が行われた。その概要は、以下のとおり。

- 宇宙利用を拡大させるには、利用コミュニティの成熟が必要である。例えば、現在の我が国においても、宇宙科学の分野は利用コミュニティがしっかりしているため、少ない予算でも効率的な技術開発を可能としている。本ワーキンググループにおいては、行政組織の現状にとどまらず、利用コミュニティの現状についても把握した上で検討を行う必要がある。
- 今後の宇宙開発利用体制の在り方を考える上で、大学の担う役割に関する検討を行うことは有意義である。大学は基礎研究の他に、失敗をおそれない挑戦的なプロジェクトを実施することが可能であり、宇宙利用の拡大への貢献も期待できる。
- 宇宙科学などの学術分野においては、研究者のボトムアップによる研究活動により効率的な研究が可能となっている。これをどのような形で維持していくか、検討が必要である。
- 本ワーキンググループの検討対象に安全保障分野の宇宙開発利用体制の在り方も含まれること、ただし、安全保障に関連する情報については、その取り扱いには慎重を期することが必要であることが確認された。
- 宇宙開発利用施策を総合的、計画的に推進するための体制の検討に当たっては、例えば予算の一元化の是非など、予算管理の在り方についても検討が必要である。
- 我が国の宇宙開発利用に係る戦略を総合的に検討するためには、その検討に必要な諸外国の動向などの情報を収集・分析する体制の整備が必要である。

6. その他

資料6について事務局より説明が行われ、原案のとおり関係府省等からヒアリングを実施することが了解された。なお、追加の質問項目等あれば、事務局に連絡することとされた。

7. 閉会

以 上